

天才アート KYOTO®



天才アートとは、障
碍のある人やひきこも
り者などの多くがもっ
ている優れた感性と表

現力、そこから湧き出
る独創的なアート作
品に対して、NPO 法
人 障害者芸術推進
研究機構（天才アート
KYOTO）が独自にネー
ミングしたものです。
当機構は天才アートを
推進し、その啓発・
普及活動を積極的行
っています。



発行日 2024年9月15日（日）

発行者 特定非営利活動法人
障害者芸術推進研究機構

天才アート KYOTO

発行所 〒603-8226
京都市北区紫野西舟岡町2番地
ふれあい共生館「きたアトリエ」
info@tensai-art.kyoto
<http://tensai-art.kyoto>

編集協力 株式会社 三六六

天才アート

検索



nemuro 『記念日』 キャンバス・アクリル絵具、H910×W727mm、2023年制作



第12回天才アート展2024 堀川御池ギャラリーで開催

さまざまな障碍がありながらも、その優れた感性と表現力、そこから湧き出る独創的な世界観を、より多くの方々に出会い識ってもらう機会として『天才アート展2024』を開催します。人生の中に広くアートが定着し素敵なインフラとなることを願い、第12回を迎える今回のテーマは「・(カンマ)」。会場も「きたアトリエ」から「堀川御池ギャラリー」に再び移し、アフターコロナにあつて多様な一区切り、新たなキックオフを作品に託し、登録作家40余名の力作がみなさまをお迎えします。



堀川御池ギャラリーで開催した天才アート展2018の会場風景



まさに芸術の秋、みなさまのご来場を心からお待ちしています。

会期 2024年10月1日(火)〜14日(月祝)
時間 11時〜18時/7日(月) 休館

会場 堀川御池ギャラリー：京都市中京区油小路通御池押油小路町238-1
入場無料

会期中、5日(土)、12日(土)には子ども向け、6日(日)、13日(日)には大人を対象にしたギャラリーツアー*を開催します。

*各日ともに11時〜と12時〜の2回開催。
先着15名(事前申込不要)

第8回『公共空間にアートの彩り』展

本展は京都市などとの連携により、暗く殺風景になりがちな公共地下道などの空間に、当機構の作品アーカイブから作成したポスターパネルを多数展示し、「アートの彩り」で明るく和みのある空間を創り出す取り組みです。

今回は、年末年始という一年で最も人通りの多い時期の2カ月間に展示予定です。多くの方々にご覧いただけることを期待しています。

会期 2024年12月上旬〜2025年1月
月末(予定)

会場 四条通地下道(下京区麩屋町通付近)〜富小路通付近の間

主催 NPO法人障害者芸術推進研究機構
協力 京都市あるくまち京都推進室・阪急電鉄(株)

助成 (公財)京都市オムロン地域協力基金

京都市庁舎地下連絡通路の展示

京都市庁舎地下2階とゼスト御池との連絡通路西側展示スペースを活用し、「京都市SDGs未来都市計画の推進」をテーマにSDGsの17目標のうち、「すべての人に健康と福祉を」と「質の高い教育をみんなに」の啓発として当機構の活動を紹介し、原画またはポスターパネルを展示予定です。

詳細が確定しましたらホームページなどでお知らせします。

会期 2025年1月上旬〜1月末(予定)
会場 京都市庁舎地下2階とゼスト御池との連絡通路西側展示スペース最大約32m

主催 NPO法人障害者芸術推進研究機構
協力 京都市



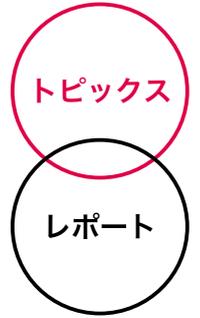
第10回東山区人権啓発展示

以前の制作拠点「新道アトリエ」のあった東山区から依頼を受けて、2015年度より始まった本展は、今年度で記念すべき第10回目を迎えました。

今回は8月6日(火)から8月23日(金)まで、東山区総合庁舎1階玄関すぐ横の展示ホールを会場に、当機構の作品アーカイブを活用した「作品ポスターパネル」20点と当機構の説明パネル1点を展示しました。新しい作品を含む個性あふれるポスターの数々は迫力があり、展示し出すと同時に、早速来館者が観覧され、見入っておられました。



展示の様子



松井京都市長を表敬訪問

去る7月10日(水)、当機構の役員5人は、京都市長に就任された松井孝治市長を訪問し、懇談させていただきました。

松井市長は、アトリエでの制作会に加え、工事現場の仮囲いにアートパネルを展示している「青空美術館」、四条地下通路での「公共空間にアートの彩り」展」など、天才アトキOTTOの活動に、大いに興味を持っていただきました。

また、現在市長応接室には障碍のある方が描かれた作品を飾っておられるとのこと、天才アトキOTTOの作品も検討していただけることや、天才アト展



笑顔の松井市長と親しく懇談



松井市長(右から3人目)、吉田副市長(左端)と参加役員

「コトノムスビ」に 今秋も出展します

2024へもお越しいただけるというお話も伺いました。
今後も京都市の教育や文化芸術・障碍者への施策に少しでもお役に立ちたいと、役員一同決意を新たにしました。

京都を訪れる国内外の観光客をお迎える宿泊施設と、京都ならではの匠の素材や逸品との出会いを通して、両者の魅力的で持続可能な好循環を目指し京都市が推進する「コトノムスビ・プロジェクト」。当機構も京都を代表する老舗や企業とともに参画してきました。

思えば昨年数々の宿泊施設とのご縁が生まれ、ホテルでの作品展覧(レンタル等)

のチャンスにもつながっています。
今回も、新たな出会いと天才アトキOTTOが旅の空間でも大切なインフラとなることを願ってPRブースを出展します。なお、一般の方はご来場いただけません。

会期 2024年9月24日(火)・25日(水)
10時~17時

会場 京都伝統産業ミュージアム(みやこめっせ地下1階)

概要 <https://www.kotonomusubi.kyoto/>
主催 京都市産業観光局 観光MICE推進室



昨年度のコトノムスビ会場



昨年度のコトノムスビでの当機構ブース

2023年度事業報告、 2024年度事業計画等 説明会を開催

8月10日(土)と25日(日)の2回、東山アトリエにて2023年度事業・決算報告と2024年度事業計画等の説明会を開催しました。

両日とも、お集まりいただきました会員や保護者のみなさまに、2023年度の活動計算書・貸借対照表・財産目録について、さらに2024年度の事業計画・事業別収支計画についての説明を行いました。

また、その他として、著作権料の支払いや定款の変更、連絡手段の確認、そして当機構設立以来ご尽力いただきました役員退任の報告などを行い、新しい体制へのご協力とご支援をお願いして閉会としました。



説明会の様子

長村 駿

TENSAI
ART
NOTE

天 才
ア ー ト
ノ ー ト



『オラウータン親子』 画用紙・ペン・アクリル絵具、H271×W388mm、2024年制作

長村 駿 Osamura Suguru 1991年生

長村は鉛筆やクレパス、水彩絵具を使い、ドローイングで動植物を描きます。描く時は、図鑑や写真などを参考にしますが、必ず独自の解釈によってフォルムやバランスに絶妙なアレンジが加えられます。彼の手によって即興的に描き出された生き物たちは、どこかユーモラスな印象を持っており、観る人の頬を緩ませます。

そして同時に、魚の鱗や植物の葉、鳥の羽を描く時には、必ず反復された形状が描かれます。そのことは対象物に命を与えると同時に、あらゆる動植物はどこかつながっているとさえも感じさせます。



『タデシマキンチャクダイ』 画用紙・ペン・水彩絵具、H270×W383mm、2024年制作

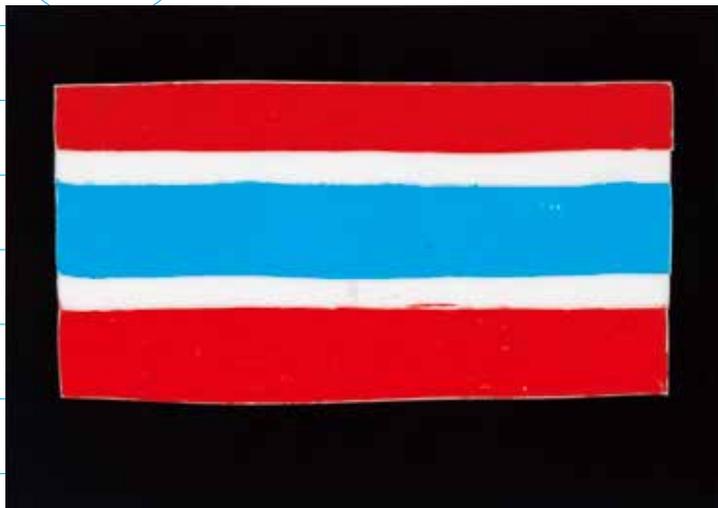


『竹林の道』 画用紙・ペン・水彩絵具、H383×W271mm、2024年制作



『ホテイアオイ』 画用紙・ペン・アクリル絵具、H271×W383mm、2024年制作

藤原 佳弘



『タイ』 タックステンド、H210×W298mm、2024年制作



『つまぐるちょう』 タックステンド、H210×W298mm、2023年制作



『カメレオン』 タックステンド、H210×W298mm、2024年制作

藤原 佳弘 Fujiwara Yoshihiro 1995年生

藤原は「タックステンド」というステンドグラス調の画材を用いて、生物や国旗をモチーフに作品を制作します。

彼の手によって生まれる生物シリーズは、極度に簡略化され、どこか語りかけてくるような親しみやすさ、そのどれもが力強い生命を宿しているかのような特徴があります。国旗シリーズも単なるアイコンではなく、しばしば国の文化や歴史そのものを象徴するものです。私たちが見慣れた国旗一つ一つにも由来があり、それらを知ることは他国の歴史と文化を知る、その最初の入口を彼は作っているのかもしれない。

小寺 菜月 Kotera Natsuki 1993年生まれ

小寺の作品には紙をハサミで切った左右対称の切り絵と、うさぎやライオンなど細い線で可愛く描かれたキャラクターの絵の2つのシリーズがあります。ともに小学生の頃から創り続けています。異なる2つの作品シリーズは、一見すると同一作家の作品でないかのように思えます。しかしながら、どの作品も実は小寺の目線からみた「可愛い」を共通点に作られており、どれもユーモラスで人懐っこさがあります。特に切り絵作品は、野菜や果物、動物の頭部などが複数連なった複雑な形状になって進化を続けていて、例えば「キノコとカニの樹」などと、気に入ったモノを組合せ合体させて切り取るのです。

小寺 菜



『宇宙人の樹』 紙、H295×W210mm、2023年制作



『宇宙人の樹』 紙、H295×W210mm、2023年制作

ご家族さまより寄稿

「孝吉とアート」

●幼少期

孝吉は、1992年に生まれ、のんびりした育ちの子ともでした。1歳半には歩けるようになったものの言葉がなく、人に関心もなく、心理的発達面で問題視され、1年間の療育を経て、保育所に入所しました。この頃には、しきりに言葉を発していましたが、彼の耳に残っている意味のない言葉ばかりでした。



白河総合支援学校時代の孝吉

今もそうですが、電車や車が大好きで、襖のレールにミニカーを並べてよく渋滞させて遊んでいました。組み立てる作業も好きで、4歳くらいの時、ブロックをつなげて平面のTシャツやエレキギターを作ったり、興味あつたスロットマシンは立体的に工夫して遊んだりしていました。お絵描きはあまりせず、DVDを見て覚えたひらがなをよく自由画帳に描いていました。5歳で、軽度の知的障害を併せた自閉症と診断されました。

●学校時代

平野 和子

地域の小学校普通学級に進学しました。

1、2年の時はいじめられることもありましたが、3年から6年までお世話になった担任の先生は、孝吉をよく理解して下さっていました。教室では教卓の前が孝吉の席で、授業中机の上にハサミとセロテープを置いて、先生より出された新幹線の組立図を得意気に制作していたようでした。それに飽きると、今度は自分で作りたい物を作っていたようで、紙と爪楊枝をセロテープで貼り合わせた傘やアンテナが伸び縮みする折りたたみ式の携帯電話など、いろいろな物を工夫して作っていました。毎日切り落とした紙切れで机の周りはいっぱいでしたが、彼の机は創造をかきたてる工作の場でもありました。これが孝吉のアートの原点だったかもしれません。5年の時には黒いごみ袋を先生にもらい、その時にはやっていた『かいけつゾロリ』のアニメの主人公の衣装を作って身にまとい、1年生のクラスを回り、子どもたちに喜んでもらっていたというエピソードも聞いていて、孝吉なりに有意義な小学校生活を送っていたように思います。

小学校卒業後、地域の中学校普通学級に進学しますが、普段から身辺の出来事や困りごとを口にしない子どもだったので、学校での彼の様子が全く見えなくなり、ただ



きゅうず(上)と扇子「紅葉」(下)

自分の意志で入部した卓球だけは、頑張っていました。友だちもなく、忍耐の中学校生活を送っていたことは想像できませんでした。この頃は、アートとは無縁で、夏休みの課題の絵画も嫌々描いていて、私が手伝い仕上げていました。

その後、白河総合支援学校に入学し、彼の中の「学校」という概念が一転したようでした。窮屈だった中学校生活しか知らなかった彼にとっては、人に認められることのうれしさ、今まで知り合えなかった友だちを得て、学校ってこんなに楽しい...と初めて感じたようでした。部活は、中学時代に頑張った卓球を1、2年間続けて、全国大会に出場し、金メダルをもらいました。

そして3年では、美術部に入部し、長い間アートから離れていましたが、再びいろんな物を作り始めました。粘土でマグカップやティーポットの陶器を作ったり、ペットボトルの中に船を入れてボトルシップにしたり、開閉のできる扇子、紙粘土でかわいい動物園も作っていました。これらの作品から、楽しんで部活で活動している様子が目に浮かぶようでした。

●社会人になって...

仕事の方は紆余曲折あり、なかなか落ち着かずこれまで大変でしたが、天才アートに出会ってからは、いつも変わらず迎えてもらえる彼の大切な居場所のように思います。作品がそれを物語っており、スカイツリーの絵は、細かく丁寧に描写して、落ち着いてじっくりと作品に向き合っていたようで、それまでに見たことのない作品でした。また、電車の粘土作品も被写体が鉄の塊であるのに孝吉の手にかかる、温かい優しい鉄道に変わっていったように感じます(親バカですが...)。

最後に、いつもお世話になっている天才アートの皆さま、会員である彼らの輝ける居場所を創り、そして存続のためにご尽力いただき、心から感謝申し上げます。今後ともどうぞよろしくお願い致します。



電車の粘土作品(下)と絵画作品(上)

退任理事からのご挨拶

前副理事長

重光 豊 しげみつ ゆたか

持続すること、そして敬意と感謝



このたび6月30日をもって、設立時よりの役員4名と共に退任いたしました。

2011年7月にNPO法人の設立・認可を得て以来13年、副理事長として障害者芸術の推進に向けて取組んでまいりました。同年11月、作家諸氏が自由に制作できる場を提供する「制作会事業」を嚆矢に、翌12年4月には展示事業として第1回『天才アート展』を開催し、同年9月には京都市立小学校の閉校施設に念願のアトリエ・事務所を開設できました。以降、作品収蔵事業、作品アーカイブ・グッズ制作、作品販売・レンタル、広報など定款に定めた事業を順次着手し、着実に活動を積み重ねてきました。その実績による「天才アート」の認知度の高まりに伴い、初年度には15人であった登録作家も23年度末には49人にまで厚みを増し、これまでに創作されて収蔵した作品は5千点を優に超えています。

これらの取組を進める中でさまざまな課題が生じ、その都度決まり事などを設けて対応してきました。昨年度よりこれらを整理し新たな事項なども加味して『NPO法人運営細則』を定め、将来にわたって活動が円滑に受け継がれるようにしました。

天才アートKYOTOの力の源は各作家のエネルギーにあります。個性的なテーマと作風・制作手法の魅力にあります。今後とも作家諸氏が自由に創作活動に専念され、作品が日本のみならず世界に向けて発信されていくことを楽しみにしています。

後になりましたが、設立以来多くのご支援ご協力を賜りました京都市、京都市教育委員会、協賛金や助成金、作品レンタル、会報広告などを頂いています企業、法人をはじめ関係各位に心よりの敬意と感謝を申し上げますとともに、引き続きご理解とご支援を賜りますようお願いいたします。

前理事 下嶋 篤 しもじま あつし



このたび6月30日をもって、法人理事を退任することとなりました。2011年にプロ

ジェクトが始まり、秋が少しずつ深まる中、呉竹総合支援学校の「ランチルーム南」で第1回のアトリエ会を開いたことが懐かしく思い出されます。重光先生を始め、松谷先生、濱田先生、富田さん、黒川さん、マツダさんたちと一緒にあって、私などはかなり手探りの状態でした。それでも利用者さんや保護者の皆さんが続けてアトリエ会を利用していただけるように、いろいろと工夫をして動き回ったことを覚えています。

その後、私自身が理事として積極的に貢献できたとはとても言えませんが、他の役員の方のご尽力により、「天才アート」

が立派に軌道に乗ったことをうれしく思います。また、利用者の親の一人として、心から感謝しています。今後も、できる限り応援させていただく所存であるとともに、プロジェクトのますますの発展を祈念しております。

前理事 マツダ ジュンイチ



このたび、6月30日をもって、法人理事を退任することとなりました。ひと言挨拶を申し上げます。

設立当初、支援学校で制作されている作家たちを探し、制作の場をア

トリエに移し、そこでの作品をどう観せるかを考えたことが思い出されます。

天才アートの作品とは、テーマとは、さまざまな素材、作風の魅力があります。自由に制作されること。描くこと、作ることに集中した作品。発表の機会、展示のよう

に観せるのかを見ることができました。天才アートの作家の作品は、自分自身の制作についても感慨深いものになりました。何本もの線重ね、何層にも色を塗り重ねて……それらを消して、また塗り重ねての繰り返しの中で冷たい無機質な画面が生き物のように動き出す。自分に与えられた時間を費やして、画面に何かを残す営み。制作は延々と続く。

これまでのご指導やご支援に心から感謝すると共に、皆さまの今後のご活躍をお祈り申し上げます。



革新の分岐点

muratec

これまでの技術でつくるか、
これからの技術をつくるか。

村田機械株式会社

本社/京都市伏見区竹田向代町136
https://www.muratec.jp

- ▶ ロジスティクスシステム
- ▶ ファクトリーオートメーション
- ▶ 半導体工場FAシステム
- ▶ 繊維機械
- ▶ 工作機械
- ▶ シートメタル加工機
- ▶ デジタル複合機/情報機器
- ▶ 生産管理システム

京都中部総合医療センター 看護専門学校生の皆さんと

去る7月4日(木)、南丹医療圏内の地域医療の中核を担う「京都中部総合医療センター」(南丹市)に隣接する看護専門学校生約40名(午前・午後の2班に分かれて)が校外実習の一環としてきたアトリエを訪問されました。Nemuroさんや大場多知子さんの個性あふれるアートが生み出される制作現場や、撮影スタジオではデジタルアーカイブによる作品の活用の一環など、とても熱心に見学くださいました。

明日の医療を支える看護専門学校のみなさんにとって、天才アートとの出会いが、心豊かな看護実践の一助となることを願っています。

また、これまでも看護専門学校さまには、施設内での作品のレンタル事業で協力・連携をいただき、本年度3年目を迎えたことから、8月28日(水)に2回目の作品入れ替えを実施しました。新たに展示した作品により、また雰囲気が変わったと好評を得ています。



アトリエ見学中の看護専門学校生のみなさん



新たに差し替えたゆうだいの作品

企業・団体の助成、協賛の募集

NPO法人として2011年の活動開始以来、登録作家は15人から44人(24年8月末現在)と大幅に増え、『天才アート展』や『青空美術館』などの各種展示事業、作品収蔵と作品アーカイブ事業、『会報』発行やHP配信などの広報事業など幅広く取り組んでいます。

当機構の運営予算の多くは、企業さまや団体さまの協賛金や助成金などによって支えられています。展示や協働事業などのオフアアが年々増えてきており、画材費の高騰などとともに資金の確保が常に課題となっています。さらに多くに企業などのご助成やご協賛の支援をお願い申し上げます。

【特別協賛などの企業さま・団体さま】

- 株式会社 SCREENホールディングスさま
- 一般財団法人 NISSHA財団さま
- 株式会社村田製作所さま・村田機械株式会社さま
- 株式会社堀場製作所さま・洛和会ヘルスケアシステムさま・京都中部総合医療センター看護専門学校さま(順不同)

＜編集後記＞

天才アート展を堀川御池ギャラリーで開催するのは、実に6年ぶりです。所属作家さんがこの1年で描きためた新作をご覧いただける絶好の機会です。二条城などを訪れ、御池通を歩かれる海外・国内の観光客の皆さまにもご覧いただき、広く知ってもらえるようにしたいと希望が膨らみます。

また、本年6月末をもって、当機構設立時からご尽力をいただきました役員4人が退任され、今後は新しい体制で運営することになりました。これまで同様、天才アートKYOTOに変わらぬご指導・ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

HAGURUMA



【表紙の作品について】

nemuroは不規則な絵の具の広がりや、時にはコラーージュを用いてできた形から見えたモチーフを縁取ることで描きます。

nemuroはアトリエで描く自身の作品について「今その時感じたものの一瞬を切り取っている」と話します。鑑賞者は彼の作品を見たとき、コラーージュを用いたキャンバス上での素材の変化や腕全体の大きな動きで描かれた線などから、nemuro作品に内包された感情や思考を感じることができるともいけません。



nemuro 『念日』
キャンバス・アクリル絵具、
H910xW727mm、2023年制作

画材・額縁
画笥堂
京都・河原町五条

一級建築士事務所
町家・古民家再生 / マンション改修
**(株)共立ホーム
エンジニアリング**
06 (6788) 5402 kap@hyper.ocn.ne.jp

お客様に寄り添い、安心と安全をお届けします
総合リスクコンサルタント
株式会社プラニ
☎ 075-353-2522

京都上鳥羽の印刷会社
MORITA
(有)森田美術印刷
京都市南区上鳥羽火打形町12 ☎ 075-692-3131

妙心寺 塔頭
養徳院
永代供養のお寺 075-461-2898

YoShiMura
吉村建設工業(株)
京都市中京区西ノ京小倉町135番地
075-802-1360

SCREEN

一般財団法人
NISSHA財団

いのちを見つめ、人間を支える。

RKW
洛和会
ヘルスケアシステム®